

科目名 地域研究実習 (事前事後の指導含む)	対象学科・学年 人間社3回生	担当者 井上、岡島、紙谷、亀井、 児玉、近藤、城、田沢、 次田、豊島、中道、中村、 中山、林進、前川、宮内、 村尾、安田、
授業テーマ ①専門知識を深化させる、②視野を広める、③人とのつながりを学ぶ中で自分に自信をつける		
授業の概要 「地域研究実習」は、学生それぞれが関心ある行政機関やNPO/NGO、法律・会計事務所、民間企業、図書館、スポーツ施設などを選択、あるいは自らビジネスを企画し、80時間以上の実習を体験する中で起こる様々な学びを獲得する科目である。		
評価方法 ①実習実施前の研究、②実習実施中の様子を記した実習受入先からの評価表、③実習実施後に行う振り返りの結果についての発表やそれを文章化した実習報告書『SHARE』を総合的に判断する。		
<ねらい> ① 専門領域の課題・知識をより深く理解する： 人間社会学部の講義では、新しい知識を得、難解な理論を理解できるように、分かりやすく噛み砕いて授業が展開されている。しかし、それでも、「分かったようでよく分からない」「新しく得た知識が一体どういう意味を持つのかよく分からない」「こういう知識は記憶しておきたいけれどもなかなか覚えられない(骨のないところに知識という肉はなかなかつかないものである)」という経験をしている学生も少なくないのではないだろうか。「地域研究実習」は、関心をもった科目に関する専門知識の理解をより深化させたい、知識の定着を図りたいという学生に、現場に足を運び、社会や実習受入機関が抱える課題を学び、専門知識を使って仕事をしている方々と出会う機会を提供する。 ② 視野を広める： 人間は、平均台の上を歩く時、どうしてもふらふらしまいがちであるが、道が肩と同じだけの幅があれば着実な歩みができる。知識の場合も同様に、平均台の幅分の専門知識だけではなく、肩幅分の広い視野・一般的な教養があることが社会人としての着実な歩みを約束する。「地域研究演習」は、これまでまったく関心も興味もなかったことにチャレンジし、視野を広くする、一つの機会を提供する科目である。 ③ 人とつながる経験をする： ベックやギデンス、ライヒ、あるいは山田昌弘など、社会学者による最近の著作には、いろいろなアングルがあるが、一つの共通点がある。それは、学生諸君が卒業後に入っていく実社会は古いシステムから新しいシステムに転換する時期にあり、不安定性・不透明性を特徴とするものであるということである(実際、就職活動の後、得た仕事を離れる女性は4割を超える)。他方、どのような仕事であれ、自信をもって自分の仕事を遂行し、語ることができる社会人と話すとすぐに分かることであるが、彼らの間にも一つの共通点がある。それは若いうちに他人とつながりながら、何かをやり遂げた経験があるということである。特に今までの人生でまったく接触のなかった「異文化」を持った人(例えば、年齢が違う人、国籍が違う人、障がいを持った人など)とコミュニケーションをとっては失敗し、めげずにトライしながら何とか一つのものを作り上げたという成功体験を持っているということである。このような経験の中から培ったコミュニケーション力やネットワーク力、自分自身に対する自信は先行き不透明な時代にこそ必要な能力である。「地域研究演習」はこのような能力や自信を身につけるために必要なチャンスの一つを提供するものである。 なお、就職活動では(特に「人間社会学部」というような幅の広い名称を持つ学部出身者に対しては)どのような大学生活を送ってきたのかを尋ねられることがよくあるが、「地域研究演習」をもとにして成功・失敗談を語ることで面接を成功裏に潜り抜けた先輩は多い。「地域研究演習」の経験は就職活動にも直接使えるものであるということを付記しておく。		
<スケジュール・内容> 個々人によって地域研究実習の日程は異なるが、基本的には以下のようなスケジュールを想定しているので、参照すること。 1. 「地域研究実習」全体説明会(3月末)&「地域研究実習」受講者向けオリエンテーション(4月) 2. それぞれのゼミの教員による指導のもと、各自実習計画書を作成しつつ、各自実習先について予備研究を開始(4月) 3. 各自実習を実施しながら、実習日誌作成(実習は6月、8-9月が望ましい) 4. 実習受け入れ先からの評価送付(10月) 5. それぞれのゼミの教員による指導のもと、各自、ゼミ内等での発表・報告書『SHARE』原稿作成(10-12月) 6. 総合評価による成績(2月)		
<注意事項> 1. 人間社会学部には多岐にわたる実習先を記したリストがあるので、実習先の選択はこのリストとゼミの担当教員のアドバイスを参考にしながら決めてください。 2. 実習中、何か困ったことがあればすぐにゼミの担当教員に連絡をするようにしてください。 3. 実習受入先では、挨拶をする、遅刻・無断欠勤はしないなどといった社会的なマナーを遵守しながら行動してください。 4. 本学の学生は、南大阪地域大学コンソーシアムが提供するインターンシップ制度も利用することができるので、特にビジネスの現場を見てみたい学生は共同研に相談するようにしてください。他大学の学生とともに受ける事前研修なども含めて大きな刺激になるであろう。		